

外国人児童生徒等教育アドバイザー派遣結果報告書

都道府県名	愛知県	市町村名	西尾市	大学名	
派遣日	令和2年11月17日(火曜日) 15:15~16:30(研修講義時間) 名鉄西尾駅11:30着⇒12:00多文化ルーム KIBOU 視察⇒13:00日本語 初期指導教室カラフルで日本語教育指導支援員・多文化ルーム KIBOU スタッフと懇 話⇒15:00中央ふれあいセンターで教務主任研修講義⇒18:00名鉄西尾駅発 ※派遣当日の次第(別添)				
実施方法	※いずれかに○をつけてください。 <input checked="" type="radio"/> 派遣 / <input type="radio"/> 遠隔				
派遣場所	愛知県西尾市中央ふれあいセンター				
アドバイザー氏名	広島大学大学院人間社会科学研究科 櫻井千穂 准教授				
相談者	西尾市教務主任会(市内小中学校・義務教育学校35校の教務主任教諭)				
相談内容	<ul style="list-style-type: none"> ・外国にルーツを持つ子供たちの日本語能力について、正確に見極める方法 ・DLAの正しい実施方法と効果的な活用の仕方 ・DLAを効果的に活用した、個に応じた日本語指導方法 ・異年齢や異学年、日本語習得度の異なる子供たちが混在する中での、より効果的なカリキュラム編成の仕方 ・特別の教育課程を編成するときの配慮事項 				
派遣者からの指導助言内容	<ul style="list-style-type: none"> ・これまで市内各学校で行われていた日本語指導についての振り返り方や検証の方法について(「分かる」と「できる」を繰り返す指導) ・間違った知識の指導(静かに授業を受けていればよい、家庭内での母語使用は望ましくない、意味なく繰り返すだけの漢字の書き取り)について ・DLAに取り組む生徒の様子を動画で視聴。日本語指導についての間違った指導方法の見直しを行った。DLAによって、何が当該児童生徒の強みなのかを探していくべき。 ・文科省のカリキュラムに対応できず、日本語も母語も身に付いていない「ダブルリミテッド」の子供たちが増えている現状がある。家庭では保護者に母語でたくさん会話をしてもらおう。母語でも言語力を高めることが、子供の思考力向上につながる。学校は、子供にとって何がベストなのか考えなければならない。 ・週1、2時間の取り出し授業に大きな効果を期待するのではなく、子供が長時間過ごす学籍学級で、どう同級生と関わるかがポイントとなる。 ・子供の実態(日本語習得度だけでなく、育ちの背景等)を正確に把握し、中長期的に特別の教育課程を編成する必要がある。それを実行し、検証するには、日本語担当教諭の力だけでは難しく、教務主任の力が必要。子供の現状を丁寧見取り、自尊心を育てられる学びをさせたい。 				
相談後の方針の変化、今後の取組方針等	<ul style="list-style-type: none"> ・特別の教育課程や学校カリキュラムの見直しや再編成 ・きめ細かな支援を継続するための、保護者との連携の取り方 ・学籍学級と個別支援(取り出し)との連携 ・DLAの普及拡大 				